自衛隊の現場

陸上自衛隊幹部候補生学校卒業所感

前川原より羽ばたく卒業生

卒業証書授与

野澤　友雅
（東京都出身）

陸上自衛隊幹部候補生学校（学校長・吉川徳等陸将補）は、第１０５期一般幹部候補生（防大・一般大卒）課程の教育を修了し、１月22日に卒業行事を執り行いました。

式には、森下泰臣陸上幕僚長、原口新五久留米市長、多数の部内外来賓、卒業生ご家族などが出席し、厳粛に執り行われました。

この卒業にあたり、ＢＵＰＬＥ」の曲『ライラック』の歌詞を引用し、結びとさせていただきます。

「過ぎてゆくんだ今日もこの寿命の通り　限りある数字が減るように　美しい数字が増えるように」。これからも出会いを大切にし、美しい経験を積み重ねていきたいと思います。

冬の寒さがいよいよ厳しくなりつつある中で、暖かな春の到来を心待ちにする季節となりました。私たち候補生も教育期間を終え、不安を抱えつつも、部隊勤務での活躍を夢見て、この前川原から飛び立つ日を迎えました。

幹部候補生学校での日々を振り返ると、それは非常に濃密で充実した時間でした。学科、訓練、服務、行事のすべてが短い期間に凝縮されており、幹部自衛官として必要な資質や識能を身につけるため、日々全力で取り組んできました。

しかし、時にはこれらの学びがどれほど私にとって意味があるのか、この生活がどれほど私の人間的成長につながっているのか、疑問に思うこともありました。

そんな時に一つの道しるべとなったのが、小学校時代の恩師の言葉でした。卒業アルバムを何気なく開いた際、そこにその言葉がありました。

「大人と子供の違いはない。子供のやることや感じることは、大人も同じように持っている。ただ違うのは『経験』であり、それが大人である理由だ」どの段階においても人間としての違いはそれほど大きくなく、重要なのはその人がどんな経験をどのように吸収してきたかだと感じました。

そう考えると、私は間違いなくこの10カ月間、貴重な経験をさせていただきました。教職員の皆さまには、教育にとどまらず、自衛官の先輩としても多くの助言をいただき、また同期とは時に対立しながらも、互いに励まし合い、切磋琢磨してきました。それだけではありません。家族、恩師、友人など、人生で出会ったすべての人々が私の糧となりました。この場を借りて、心から感謝申し上げます。

最後に、２０２４年のＮＨＫ紅白歌合戦で印象に残った「Ｍｒｓ．ＧＲＥＥＮ ＡＰ

平岩　志萌
（愛知県出身）

（第４候補生隊第６区隊）
一般幹部候補生　陸曹長

陸幕長と走った登山走

幹部候補生学校の門をくぐってから約10カ月が経ちました。自分の大切な人や場所を守れる人になりたいと思い、入隊を志しましたが、この10カ月間を通して、無力さを痛感することばかりでした。おそらくこれからも、自分の無力さを感じる場面は多いことでしょう。

ですが、これは決してマイナスなことではないと幹部候補生学校で学びました。自分一人でできることは限られていますが、周りの人と支え合い、協力し合うことで成し遂げられることがたくさんあると実感しました。同期のみんながいなければ、総合訓練を乗り越えることも、卒業を迎えることも、決してできなかったと思います。

この期間、私たちの教育に携わってくださった候補生隊の指導部の方々をはじめ、各課目の教官や教導隊の方々が、さまざまな場面で協力し合いながら私たちを導いてくださる姿をたくさん目にしました。

年齢や階級に違いがあっても、同じ目的に向かって協力し支え合うことができる組織を引っ張ることが、幹部に求められることだと理解しました。

特に指導部の方々からは「人の上に立つのではなく、前に立つ幹部」としての姿勢や、背中で人を引っ張る幹部としての姿勢を学びました。

この間、たくさんの同期や指導部の方々に支えられ、無事に卒業を迎えることができました。指導部の方々には、心身両面で教育環境を整えていただいたことに、心から感謝しています。同期のみんなには、さまざまな場面で支えられ、とても充実した学校生活を送ることができたことに感謝しています。

卒業を迎える今、部隊での勤務に対して正直なところ前向きな気持ちよりも不安が大きいですが、幹部候補生学校で学んだこと、経験したこと、出会った同期や指導部の方々とのご縁を大切にし、覚悟を持って自分にできることを精一杯頑張っていこうと思います。

見送りを受け前川原を旅立つ

続・二十歳の祝い

海田市（広島県）
駐屯地年始行事二十歳の誓い
両親に感謝の気持ちを伝える隊員も

家族らも見守る中、抱負を述べる

陸上自衛隊海田市駐屯地（司令・村上賢治１等陸佐）は１月20日、駐屯地年始行事を開催し、今年度二十歳を迎える隊員38人による「二十歳の誓い」を実施しました。

この行事は今回で12回目を迎え、３階建ての司令部庁舎屋上から二十歳の抱負や決意を述べ、上司らが激励し、自衛官としてさらなる成長を願う催しです。

毎年、地域の首長をはじめ自治体関係者や協力団体を招待し、テレビ報道もされるなど、駐屯地並びに地域の恒例行事として定着しています。

今年は初めての試みとして隊員の家族を招き、県内から多くの家族が参加しました。

二十歳を迎えた隊員たちは、自衛官・社会人としての目標や抱負を力強く誓うとともに、普段は両親に面と向かって言えない感謝の気持ちを伝える隊員もいました。

その中でも、両親が海田市駐屯地で勤務する第46普通科連隊本部管理中隊の船橋皇南１等陸士は「この場を借りて感謝を伝えます。父さん、母さん、愛してるぜー！」と叫び、駐屯地中が温かい愛に包まれました。

感動あり、笑顔あり、それぞれの隊員が工夫を凝らした「二十歳の誓い」も無事に終了しました。志を新たにした38人の隊員の今後ますますの成長を祈念するとともに、次回の行事をさらに盛り上げるべく、歩み続ける海田市駐屯地です。

函館（北海道）
駐屯地成人行事（二十歳の集い）を開催
新成人、来賓らに感謝と抱負を述べる

麻袋リレーで昨年の成人に勝利

陸上自衛隊函館駐屯地（駐屯地司令・廣山俊一１等陸佐）は１月10日、駐屯地において「令和６年度函館駐屯地成人行事（二十歳の集い）」を開催しました。

当日は協力諸団体の会長が来賓として招かれ、部隊と共に新成人を祝福しました。

祝賀会食では、新成人に向けて駐屯地司令より要望事項と祝福の言葉が贈られました。また、新成人を代表して第28普通科連隊の高谷士長が、来賓および列席者に感謝の意を伝えるとともに、新成人としての抱負を述べました。

その後、新成人たちは駐屯地の隊員に見守られながら、隊舎４階から若者らしくはつらつと決意表明を行いました。

最後に駐屯地グラウンドにおいて、昨年成人した隊員との麻袋リレー対決が行われ、今年の新成人が勝利を飾り、成人行事の幕を閉じました。

大村（長崎県）
第73回日本スポーツ賞競技団体別最優秀賞受賞

「第73回日本スポーツ賞」（読売新聞社制定、日本テレビ放送網共催）の選考会が令和６年12月12日に読売新聞本社で開かれ、第68回全日本銃剣道優勝大会で優勝した陸上自衛隊第16普通科連隊（連隊長・土肥崇紀１等陸佐）が「競技団体別最優秀賞（銃剣道）」に選ばれました。

表彰式は１月16日にTheOkura Tokyoで開催され、第16普通科連隊銃剣道部を代表して監督の北慎一郎陸曹長が参加し「この成果を収められたのも、訓練環境を整備していただいた部隊の皆さまのご理解・ご協力があったからこそであり、本当に感謝しています」と述べました。

表彰を受ける北陸曹長（右）

北千歳（北海道）
北千歳駐屯地二十歳の集い
10式戦車（重さ44㌧）との綱引きに挑戦

陸上自衛隊北千歳駐屯地（司令・香川賢士陸将補）は１月17日、駐屯地体育館において「令和７年北千歳駐屯地二十歳の集い」を開催しました。

千歳地方防衛協会会長（横田隆一千歳市長）をはじめ、協力団体の来賓や隊員家族、駐屯地各部隊長らが見守る中、二十歳の隊員34人が夢と希望に満ちた新たなスタートを切りました。

二十歳の隊員と10式戦車の綱引き

香川駐屯地司令は「自衛官という職業に誇りを持ち、20代の青春を歩むこと」「感謝の気持ちを忘れないこと」を祝福の言葉として贈りました。

二十歳を迎えた隊員たちは、緊張した面持ちで、それぞれの決意を新たにしました。

続いて、二十歳の隊員を代表して第１０２弾薬大隊の茂木３等陸曹が「今日まで私たちを大切に育ててくれた両親、そして日々愛情あふれるご指導をくださる部隊の方々への感謝を忘れず、国民から常に信頼される自衛官を目指し日々精進します」と力強く決意を述べました。

その後、二十歳の隊員たちは10式戦車（重さ44㌧）との綱引きに挑戦。最初はびくともしなかった戦車も、先輩隊員らの協力を得て動き始めると、来賓から声援が上がり、会場は笑顔と活気にあふれました。

豊川（愛知県）
即応予備自も厳寒の中、野営訓練を実施
寒波の試練を乗り越え、連隊の練度向上へ

陸上自衛隊第49普通科連隊（連隊長・近藤浩行１等陸佐）は１月９日から17日の間、あいば野演習場において「令和６年度第４次連隊野営訓練」を実施しました。

期間中、連隊訓練検閲（統裁官・連隊長、受閲部隊・第５中隊、情報小隊、通信小隊）を実施し、各級指揮官の状況判断能力と実員指揮、隊員の基本動作や練度を評価しました。訓練は寒波による大雪に見舞われ、厳しい積雪寒冷の環境下で行われました。

統裁官は訓示で「執念を持って役割を果たせ」「基本・基礎の徹底」を強調し、安全管理、健康管理、物品管理の徹底を求めました。

大雪の中、敵状を監視する第５中隊

今回の検閲課目は陣地防御。第５中隊は主戦闘地域守備部隊として、地形を活用し、情報・火力・障害を連携させた強固な防御戦闘を実施。情報収集、通信小隊は有線・無線通信網の構成・運用を担当しました。

また、即応予備自衛官も訓練に招集され、常備自衛官と一体となって任務を遂行しました。

検閲後の講評では「今回の経験を生かし、さらなる練度向上を目指し、日々の訓練に励んでほしい」と統裁官が述べ、訓練を締めくくりました。

佐世保（長崎県）
補給艦はまな「はまフェス」を開催
隊員家族、海自の役割や艦の任務を体感

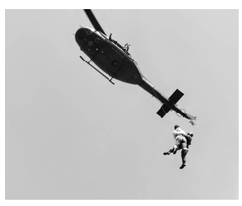
海自の補給艦「はまな」は１月19日、隊員家族を招き、アットホームな交流イベント「はまなフェスティバル」（はまフェス）を開催しました。年末年始に家族と過ごせなかった隊員たちは、この機会に艦内で餅をつき、少し遅めのお正月気分を味わいました。

つきたてのお餅は、あんこやきな粉をまぶして楽しみ、大人も子供も笑顔に。また、佐世保音楽隊による演奏も行われ、「軍艦」や「新時代」など８曲が披露されました。迫力ある演奏に来艦者からは「圧巻だった！」「また聴きたい！」と感動の声が上がり、大盛況のうちに幕を閉じました。

総じてより深い理解と親しみを持つ機会となりました。

補給艦「はまな」は、３月29日で就役35年を迎え、これからも海上自衛隊の補給艦（第１海上補給隊）の一員として、日本の海を守るために活躍していきます。

大人も子供も笑顔の「はまフェス」


ホイスト救助する女性自衛官

今回の検閲課目は陣地防御。第５中隊は主戦闘地域守備部隊として、地形を活用し、情報・火力・障害を連携させた強固な防御戦闘を実施。情報収集、通信小隊は有線・無線通信網の構成・運用を担当しました。

また、即応予備自衛官も訓練に招集され、常備自衛官と一体となって任務を遂行しました。

検閲後の講評では「今回の経験を生かし、さらなる練度向上を目指し、日々の訓練に励んでほしい」と統裁官が述べ、訓練を締めくくりました。

大雪の中、敵状を監視する第５中隊

今回の検閲課目は陣地防御。第５中隊は主戦闘地域守備部隊として、地形を活用し、情報・火力・障害を連携させた強固な防御戦闘を実施。情報収集、通信小隊は有線・無線通信網の構成・運用を担当しました。

また、即応予備自衛官も訓練に招集され、常備自衛官と一体となって任務を遂行しました。

善通寺（香川県）
南海レスキュー２０２４に参加
四国４県で実動訓練、家族も安心の備え

派遣準備完了を報告する初動派遣部隊

陸上自衛隊第14旅団（旅団長・大場剛陸将補）は１月13日から17日の間、四国４県で「南海レスキュー２０２４」に参加しました。

本訓練は、南海トラフ巨大地震の発生を想定し、最大震度７と津波による被害を受けた孤立地域への初動対応を重点に実動訓練を行いました。

各部隊は迅速に指揮所を開設し、県庁へ連絡員を派遣。並行して、車両や食料を準備し、被害が予想される地域へ偵察部隊を派遣しました。津波で孤立した地域には、第14飛行隊（隊長・桑原正之２等陸佐）のＵＨ－１ヘリコプターが出動し、避難タワーからのホイスト救助（ヘリコプターのホイスト装置を使用して、救助隊員などを降下させ、救助する活動）を実施。さらに、海上自衛隊の輸送艦「くにさき」を海上支援拠点（シーベース）とし、重傷者をヘリで搬送して治療を行いました。水陸機動団のＡＡＶ７（水陸両用車）は海上から救援物資を運搬。ＬＣＡＣ（エアクッション艇）は、通信復旧用の衛星通信車や油圧ショベルを輸送し、ライフライン復旧を支援しました。

ホイスト救助する女性自衛官

生活・インフラ支援では、第14後方支援隊（隊長・渡邉修１等陸佐）がイオンモール高知の協力を得て、野外炊具を使用した豚汁の炊き出しや足湯体験を実施。第14音楽隊（隊長・平林誠１等陸尉）は、「負けないで」など過去の災害派遣で演奏した曲を披露し、来場者を励ましました。

訓練終了後は、香川大学の白木名誉教授による講演や、自治体・関係機関との意見交換会を実施し、さらなる連携強化を図りました。

第14旅団は、過去の教訓を生かし、各機関と密に連携しながら、南海トラフ巨大地震に備え「実力の進化」に努めてまいります。

青野原（兵庫県）
予備自衛官21人、訓練で団結強化
精神・体力を鍛え、有事に備える

救急法および野外衛生訓練

駐屯地警備訓練

陸上自衛隊第８高射特科群（群長・小林憲治１等陸佐）は１月下旬、「令和６年度第２回予備自衛官招集訓練」を実施しました。21人の予備自衛官が参加し精神教育、体育訓練、救急法・野外衛生訓練、特殊武器防護訓練、駐屯地警備訓練などに取り組みました。

訓練では、救急法の演習でお互いに手当を施しながら、いざという時に備える意識を高めました。また、駐屯地警備訓練では、仲間同士で役割を分担し、連携を深める姿が印象的でした。

参加者からは「実践的な内容で、自信がついた」「仲間とともに成長できた」との声が聞かれ、予備自衛官同士の絆もより一層強まったようです。

上富良野（北海道）
隊員が力を合わせて除雪支援
高齢者住宅で地域貢献活動

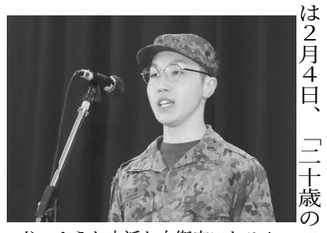
２月２日、陸上自衛隊第３地対艦ミサイル連隊（連隊長・井田輝彦１等陸佐）は、北海道・中富良野町で高齢者住宅の除雪ボランティアを行いました。

連隊から約50人の隊員が参加し、住宅周辺や窓まで積もった雪を一丸となって除雪。住民からは「ありがとう」と感謝の言葉が寄せられました。

第３地対艦ミサイル連隊は「地域とのつながり」を大切にし、地域貢献活動に積極的に参加しています。これまでにも災害支援や地域行事への参加などを通じ、地元住民との絆を深めてきました。今回の除雪活動もその一環であり、隊員たちは「自衛隊として地域に貢献できることを誇りに思う」と語り、地域との連携をさらに強化する機会となりました。

窓まで積もった雪を除雪

丘珠（北海道）
「二十歳のつどい」を開催
新成人、目標、決意を語る


父のような立派な自衛官になる！

陸上自衛隊丘珠駐屯地（司令・三笠展隆１等陸佐）は２月４日、「二十歳のつどい」を開催しました。

今年度、新成人を迎える隊員は12人で、入校などで不在の者を除く７人が成人としての抱負を述べました。新成人たちは「趣味の筋トレでＢＩＧ３（スクワット・デッドリフト・ベンチプレス）５００kgを目指す！」「彼女を作る！」「父のような立派な自衛官になる！」「部隊に貢献する！」など、それぞれの目標や決意を語りました。

司令は「成人としてできることが増えるが、周囲の諸先輩方の話をよく聞き、学んでほしい」と激励し、記念品を贈呈しました。

二十歳という節目を迎え、未来ある隊員の今後の活躍にますます期待がかかります。

漢字あそび　第24回

問題：知ってるかな？　慣用句

初級　知らないとちょっと恥ずかしい
・待ち遠しくて、思い慕うこと
・優れている抜け出ている者はとかく憎まれること

中級　意外とやっかい
・激しく怒ること、心から怒りを覚えること
・立ち去るものは見苦しくないよう後始末すること

上級　自慢できるかな
・大成する人は幼いころから抜きんでているという意味

（解答は、７面に）
（出題・解答：LUCKY）
※数字: 頭の体操はお休みします。